

2020年11月27日
住友生命保険相互会社

ブラックロック・リアルアセットが運用する インフラファンドへの投資について ～再生可能エネルギープロジェクトへの投資を通じた気候変動問題への貢献～

住友生命保険相互会社（取締役 代表執行役社長 橋本 雅博、以下「住友生命」）は、ブラックロック・リアルアセットが運用する、再生可能エネルギー関連施設への投資に特化したインフラファンド（以下「本ファンド」）に約105億円投資することを決定しました。

本ファンドは、主にOECD加盟国に建設される、今後成長が見込まれる太陽光・風力などの再生可能エネルギー発電施設、蓄電・送配電施設等の発電に付随する施設を投資対象とするファンドです。

また、本ファンドは、環境や社会に好影響を及ぼすインパクトと投資収益を同時に追求する運用アプローチを徹底しており、「国連SDGs」に即したインパクト評価やESG項目の可視化・達成度のモニタリングを行っています。具体的には、太陽光・風力等の再生可能エネルギー発電による温室効果ガスの排出削減や節水、関連施設の建設や運営等における現地での新たな雇用の創出等、環境および社会的なインパクトに関する項目についてモニタリングを行っています。



© BlackRock Real Assets

<本ファンドの概要>

運用チーム：ブラックロック・リアルアセット
ファンド名称：Global Renewable Power Fund III
投資金額：1億米ドル（約105億円）

住友生命は、運用収益の向上に加え、気候変動問題の解決に資するとの観点から、本ファンドへの投資を決定しました。

住友生命は、「社会になくてもならない保険会社」の実現を目指し、事業活動を通じた持続可能な開発目標「SDGs」の達成に向けた取組みを進めています。また、ESG 投融資をその主要な取組みの1つとして位置づけ、持続可能な社会の実現、および、中長期での投融資を行う機関投資家にとって運用収益の向上に資するとの認識の下、ESG 投融資に取り組んでおり、今般の投資はその一環として行うものです。

< 「スミセイ中期経営計画 2022」全体像 >



今後も、ESG 投融資を通じて持続可能な社会の実現に貢献していくとともに、運用収益の向上に取り組んでいきます。

以上